

# 国家戦略特区 提案書

- 食の総合拠点づくり
- CCRC (生涯活躍のまちづくり)の推進



当別町スウェーデンヒルズの町なみ

北海道 当別町

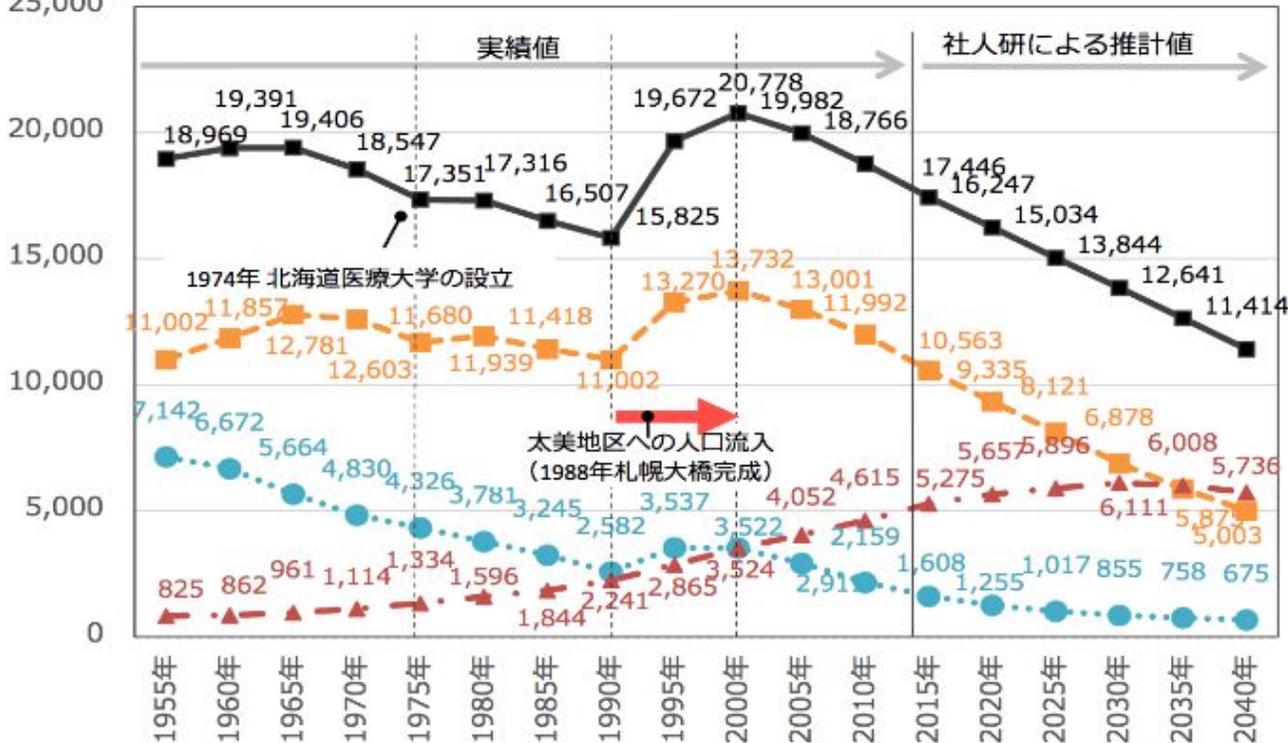


# 当別町が抱える課題

## 人口減少と少子高齢化の進行

- 札幌市と当別町を結ぶ「札幌大橋」の完成により、宅地開発が急増。人口流入が進み2000年には20,000人を超えた。
- 宅地開発が終息すると人口減少に転じ、2016年9月1日現在で16,710人まで減少。
- 人口減少と併せて少子高齢化も進行。出生率（2013年データ）は1.01と北海道内ワースト2となっている。

人口(人)



## 課題

■ JRの電化、国道337号当別バイパスの4車線化による交通アクセスの充実 ⇒ 近隣都市に人や購買力が流出

■ 町内企業の不振から、雇用環境が悪化しており、若い世代の人口流出の原因となっている。

■ 企業誘致を進めたい国道沿線の地域は農地法や農業振興地域の整備に関する法律により保全すべき農地として位置付けられているため、企業誘致と農業振興の両立を図ることが難しい。

■ 地元医療系の大学はあるが、アパート等の住居の不足やアルバイト等の雇用の場が少ないため、町内に居住している学生が少ない。

# 課題解決のために

## 当別町が持つ優位性

- 札幌都心部から車で約45分、JRでは約35分、また新千歳空港からは車で約70分とアクセスに優れている。
- 豊かな自然環境と田園風景の中で都市機能を損なわずにゆったりとした暮らしが可能である。
- 農業が基幹産業であり、豊富な種類の穀物、野菜類、畜産物、花きを生産。
- 道央圏の物流・人軸となる国道337号沿線に現在、道の駅を建設中（平成29年完成予定）。

## 課題解決

### 当別町が持つ優位性を活かして

#### I 産業力の強化

#### II まちに人を呼び込む「定住・交流の促進」

#### を推進する

# 提案の概要

当別町が抱える課題を解決し、人口減少克服・地方創生を実現するためには「**産業力の強化**」と「**町に人を呼び込む『定住・交流の促進』**」の推進が必要です。そのために次の施策を提案します。

## 提案1： 食の総合拠点づくり

当別町が有する豊かで多彩の農資源と、道央圏連絡道路による物流アクセスの優位性を活かし、食品加工・製造・流通・販売企業の誘致を促進して、当別町内に「食の総合拠点づくり」として構築する。

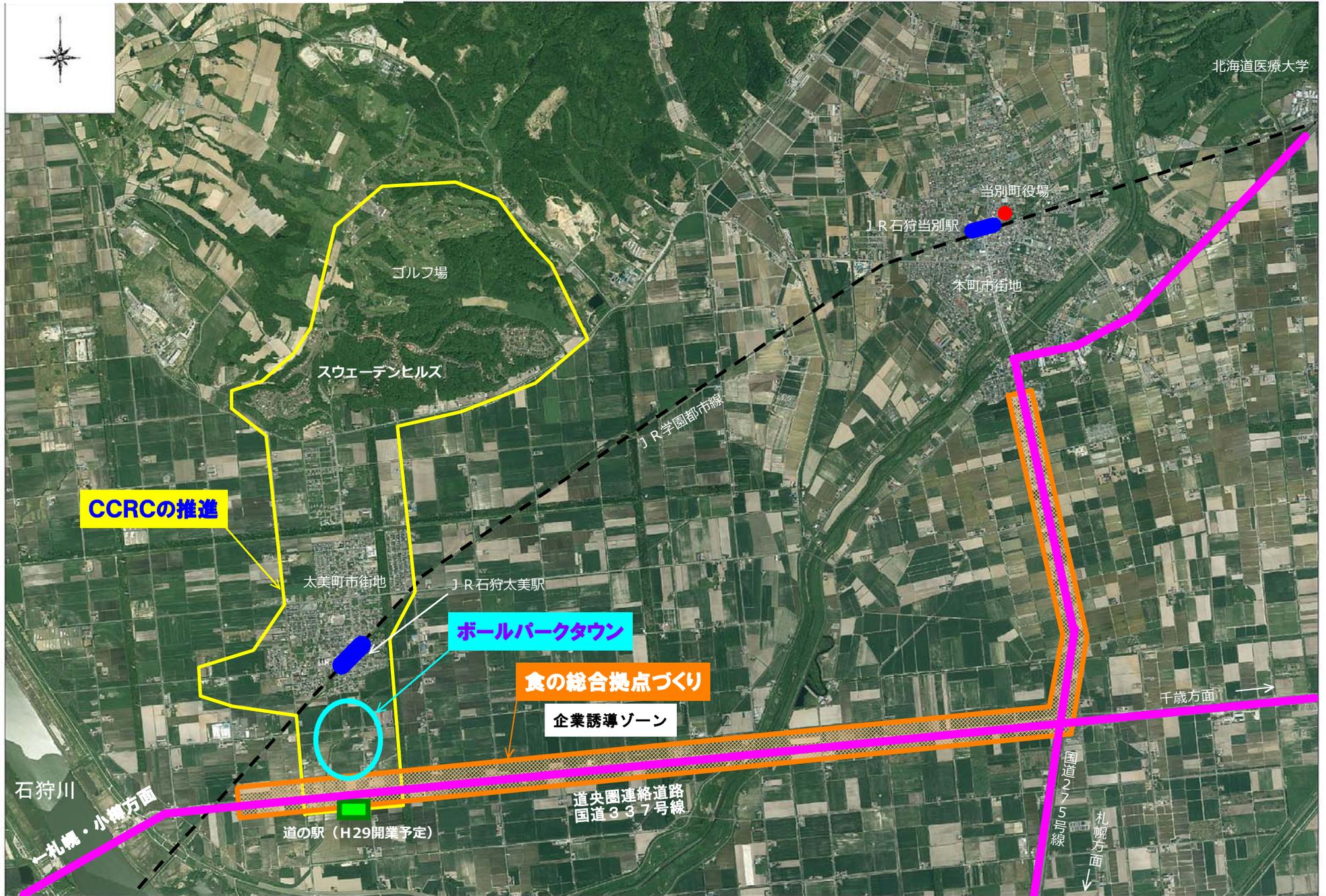
## 提案2： CCRCの推進

首都圏からのアクティブシニアの移住を促進し、多世代が生き生きと暮らせる理想の新しいまちづくりを構築する。

## 提案3： ボールパークタウンの実現

スポーツ施設（野球場）を核とし、商業施設などの複合的な機能を組み合わせた魅力的な“ボールパークタウン”を構築する。

# 当別町提案箇所計画案



# 提案内容

## 実現に向けた壁

### 農用地に必要な施設を建設したい

#### 農業振興地域の整備に関する法律

##### 第13条第2項

農用地等以外の用途に供することを目的として農用地区域内の土地を農用地区域から除外するために行う農用地区域の変更は、5つの要件を満たさなければならない。

### 6次産業化推進のため農業生産法人を設立したい

#### 農地法

##### 第2条

農地所有適格法人の要件

### シルバー人材センターの労働時間制限の撤廃

#### 高年齢者等の雇用の安定等に関する法律

##### 第38条第1項

臨時的かつ短絡的な就業（雇用によるものを除く。）又はその他の軽微な業務に係る就業（雇用によるものを除く。）を希望する高年齢退職者のために、これらの就業の機会を確保し、及び組織的に提供すること。

### 自家用自動車「ライドシェア」の活用

#### 道路運送法

##### 第78条

自家用自動車は、有償で運送の用に供してはならない。

# 想定される経済・社会的効果

## 食の総合拠点づくり

- 6次産業化の推進
- 農産物の産出量の拡大
- 農産物・加工食品等の道外への供給、海外への輸出強化
- 農業所得向上により地域経済が活性化
- 雇用創出による人口増加

## CCRCの推進

- 首都圏の介護需要の抑制に寄与
- 雇用創出による人口増加
- 新たなビジネスモデルの確立と高齢者市場の開拓による地域経済の活性化
- 空き家など既存ストックの効果的な活用促進